

人爲主人所逐、無所依賴、來請寓于蓬萊家矣。蓬萊憐之、置二人於家、遇之若賓客、未嘗媒狎、自謂爾嚮在樓爲妓、今則處婦、非卑賤之者、安撫之逾厚、整其資裝、嫁之人、皆賢焉。

〔銀臺遺事〕龍一與にて、何事かありけん、いそがはしく立ありき給ける時、そこに候ひける、女の膝に、そと御足重賢細川のさわりければ、御手を出して、いたゞき給はせられければ、女は勿體なきとて、畏申ければ、いよいよ、同じ人なるものをと宣ひしとぞ。

智 賢 愚 併入

智ハ、サトシ、又ハサトリト云ヒ、後ニ智慧トモ云ヘリ、深ク謀リ遠ク慮リ、或ハ機ニ臨ミテ變ニ應ジ、或ハ事ヲ未然ニ防グ等、其事蹟ノ見ルベキモノ枚舉ニ違アラズ、今ハ只其一ニヲ録スルノミ、而シテ事ノ軍略ニ關スルモノハ、兵事部ニ載セタリ、

賢ハ、カシコシト云ヒ、サカシト云ヒ、又ヒジリトモ云ヘリ、ヒジリハ又聖ノ字ヲ用キル、智徳兼備ノ者ヲ謂フナリ、

愚ハ、オロカト云ヒ、シレモノト云ヒ、後又バカアホウ等トモ云ヒテ、其稱呼甚ダ多シ、智力ノ尋常人ニ及カザル者ヲ謂フナリ、而シテ伴リテ愚ヲ糲フモノモ亦此ニ收載セリ、

名稱

〔新撰字鏡〕小慥也、謀也、佐、止、留、快也、

〔類聚名義抄〕二智サトシトシ和チイ、サカ

〔釋名釋言〕四智知也、無所不知也、

〔伊呂波字類抄〕知智惠 智謀 智徳 智行 智者 智囊

〔日本書紀〕一神代一書曰、中有高皇產靈之息思兼神云者、有思慮之智、サトリ○下略